新潟県
公民館月報
KOMINKAN GEPPO
（昭和33年3月18日　第3種郵便物認可）
発行年　平成24年3月15日
発行定日　毎月15日
2012
3
March

4.5 特集 「災害時の公民館のあり方とは～日常が非日常を救う～」
新発田市・井浦　尚子
2 トピックス　平成24年度基本方針・事業計画　事務局長・田原　理
3 視点　「子どもを育てる社会教育」　新潟市・小島　良子
3 ひろば　「五十嵐川の白鳥」　三条市・弥田　正蔵
6 実践記録シリーズ　「柏崎市のコミュニティセンターと公民館」　柏崎市・戸田　洋子
7 サークル交流　「自分が楽しく、みんなで楽しく」（新潟市）／「一文字一文字格闘です　又楽しみです」（見附市）
7 素顔拝見　丹穂　亮太さん（佐渡市）／野村　直美さん（加茂市）
8 お元気ですか　柏崎市・池嶋　正和さん
8 恵贈資料紹介

「青海竹のからかい（国指定の重要無形民俗文化財）」（糸魚川市）

表紙解説
　1月15日、糸魚川市青海地域に江戸時代から伝わるさいの神行事「青海の竹のからかい」が開催され、子どもの部には小中学生が参加し元気に竹を引き合いました。

No.709

平成24年度基本方針・事業計画　事務局長　田原　理

2月22日(水)に第3回理事会、第2回評議員会が新潟市中央公民館で開催されました。

理事会では、今年度の会務報告・収支決算見込み・平成24年度基本方針・重点目標・事業計画・第63回県公民館大会開催案・第64回県大会開催地確認・関ブロ新潟大会開催要項等について協議されました。

引き続いて行われた評議員会（関ブロ実行委員会を兼ねる）では、理事会で協議されたことについて審議し、原案どおり承認されました。

以下は主な審議事項です。

1　平成24年度基本方針

〈抜粋〉

(1) 地域社会における様々な変化に対応した公民館運営や事業展開が強く求められている。

(2) 公民館が担うべき役割や位置づけを明確にする必要がある。

(3) 財政基盤の確立に努力する。

(4) 県大会や関ブロ大会の準備に確実に取り組む。

2　重点施策

(1) 関係上部組織との一層の連携強化

(2) 職員の資質向上を図る研修事業の実施

(3) 情報収集の充実、提供

(4) 主催事業、関係事業の実施と支援

(5) 財政基盤の強化・自主財源への努力

正副会長会

理事会

3　事業計画・研修会等日程

(1) 評議員会
①5月25日　新潟市
②2月15日　南魚沼市

(2) 理事会
①5月25日　新潟市
②6月14日　新潟市
③2月15日　南魚沼市

(3) 監事会
5月18日　新潟市

(4) 関ブロ実行委員会
①5月25日　新潟市
②9月12日　長岡市
③11月20日　長岡市
④2月15日　南魚沼市

(5) 県公民館大会
7月20日　糸魚川市

(6) 関ブロ長野大会
9月27日、28日　松本市

(7) 全国公民館研究集会
10月11日、12日　大津市

(8) 関ブロ理事会
①5月17日、18日　松本市
②11月16日　東京
③2月15日　南魚沼市

4　関ブロ長野大会の対応

新潟県担当分科会「これからの公民館事業計画」中越地区が担当　発表者、司会者、助言者も担当。

評議員会

5　関ブロ新潟大会の対応

(1) 講演講師

〈前半〉

上越市社会教育委員・公民館運営審議会委員のみなんの寸劇　20分

〈後半〉

雲尾　周・新大准教授のまとめの話　1時間

(2) 分科会構成

14分科会開設　4分科会は上越1、下越1、新潟市2が担当

(3) 日程

受付開始時間と並行して「第64回県大会」開催する。

県公民館表彰、次期開催地（新潟市）への引継　30分

訃報

新潟県社会教育、公民館の発展に尽力した元豊栄市長の石井耕一氏が2月24日ご逝去されました。昭和49年から11年間にわたり県公民館連合会長、昭和57年から8年間全国公民館連合会副会長として全国、新潟県公民館の発展に大きな功績を残されました。豊栄市長時には県公民館振興市町村長連盟会長に就任され、現在の公民館連合会運営の財政基盤つくりに大きな力を発揮されました。昭和63年にはこれらの功績に対して、秋の叙勲で「勲四等旭日小綬章」を受賞しました。

氏のご功績にあらためて感謝申し上げるとともにご冥福を心からお祈り申し上げます。

新潟県公民館連合会

視点「子どもを育てる社会教育」

入舟小学校地域教育コーディネーター　小島　良子

平成19年度より、学・社・民の融合による「地域と学校パートナーシップ事業」がスタートし、現在は新潟市内139の小中学校に地域教育コーディネーターが配置されています。以前は公民館、学校がそれぞれ独自の活動をしていましたが、コーディネーターの配置は、学校と社会教育を繋ぐきっかけとなり、今ではお互いを認め合い、多くの協働事業が行われています。その中から事例を紹介します。

学：入舟小学校・社：中央公民館・民：地域　が手を組み、お寺の修行や銭湯など、学校ではできない体験を子どもたちが経験できる、その名も「お寺でゴ～ン！」。子どもたちが人との関わりや感謝の気持ちを肌で感じることのできるこの活動は、公民館職員がもっている知識やアイデア、そして協力してくれる地域があり成功できたのです。平成23年度「お寺でゴ～ン！」は、中央区管内全ての公民館で行われました。たくさんの子どもたちと大人が、関わり学びあう光景が広がってきています。

子どもたちの人間形成には社会教育は欠かせません。今後、学校教育と社会教育が自然と重なり合う場が増えることを期待しています。

HOT NEWS 掲示板

新事務所へ移転

新事務所入り口

先月号でお知らせした当連合会の新事務所への移転が３月８日に行われました。それに伴って電話番号が下記に変わりました。

新電話・FAX 番号　025-266-7711
新住所　〒950-2004
新潟市西区平島1301　中野プラザ107
E-mail は変更なし　ni-koren@juno.ocn.ne.jp

入居する「中野プラザ」ビル

ひろば

五十嵐川の白鳥

三条市社会教育委員・公民館運営審議会委員　弥田　正蔵

三条市（森町・荒沢地内）の五十嵐川に毎年十一月上旬ころから白鳥がやってきます。最初に飛来したのは、昭和六十一年十二月で二、三羽でした。近くの小島文吉さんが餌を与えたのがきっかけで、やってくるようになりました。その数は年々増え、多い年では四〇〇羽が確認されています。また、地域の人達で「荒沢学区白鳥を愛する会」を作り、飛来地の川沿いに観察小屋を建て、餌集めや水辺の環境を守る活動を続けてきました。餌やりは朝と夕方、文吉さんが続けてきました。文吉さん亡き後は妻のタイさんが引継ぎ、今は長男で白鳥を愛する会の会長を務める文男さんが引継いでいます。白鳥は地域の人達に大切に保護され、五十嵐川を悠々と泳いでいます。見物には、地域の人達をはじめ保育所の子どもたちや小学生、休日には市外から家族連れなど多くの人が訪れるようになりました。

三条市では、平成二十五年度に観察施設や駐車場の整備を計画しています。いつまでも五十嵐川に白鳥が飛来することを願っています。

方とは～日常が非日常を救う～」

パネルディスカッション

果だった。他の班からは、地域のリーダーに分配をゆだねる・早い者勝ち・中にはまったく配らないという意見もでた。

細川氏は何が正しく何が正しくないとは言えないと言ったあとで、大切なのは決断力・判断力だと解説した。おにぎりをおかゆにして100人にふるまう・70個のおにぎりをばらして100個に握りなおすなどのアイディアを凝らした意見も出る中で、その発案に大いに称賛を送りながらも実際の避難所の状況を想像することが重要だと付け足した。その案が現実的かどうかまでを公民館職員として瞬時に判断しなければならない。がれきをかきわけ鍋を探し、火をおこしておかゆを煮ることも不可能ではないだろう。100人の口に食べ物を運ぶことができ有効な方法ではある。しかし避難所運営の初動期においては本部のたちあげ、避難者の状況把握、関係機関との連携など公民館職員がすべきこと、反対にいうと職員にしかできないことが山積みであり、人力をその一点に集中させることが果たして得策かというところまで考える必要があるのだ。その上で状況に応じて一番いいと思うことを判断し行動する力が求められる。だからこそおにぎりの件についても答えはひとつではないのだ。普段公民館職員に必要とされる発案力と柔軟さに加え、即決力・判断力が不可欠なのが災害時なのである。

この研修に参加するまで私は、避難所運営は避難者の身の回りの世話や食事の準備をさすのだと思っていた。しかし実際はそれだけでは足りないと知った。初動期・展開期・安定期を経て撤収期に至るまで避難所を運営するために公民館職員がすべき一番大切なことは何か。災害という非日常により急に避難せざるを得なくなった人たちの想いをうまくコーディネートすること。グリーフを少しでもケアすること。そして「協力体制と秩序を作っていくこと」ではないかと思うようになった。

「公民館は、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする」と社会教育法第20条にある。私たちは日々、その理念のもとに事業を展開し地域やそこに住む人たちと接しているわけだが、一番大切なことはこの日々の業務に他ならない。様々な行政の業務内容の中でも公民館ほど住民の中にとびこむことのできるところはなく、この直接触れ合える距離感が公民館職の宝であり、万が一の時の大きな財産なのだと思う。

日頃練習していない技は大会でも当然うまくいかないように、普段地域や住民と関わりを持たなければ非常時にもそれは難しい。公民館のカルチャースクール化が叫ばれて久しいが、公民館は平和な時、なにもないときだけ余暇を楽しむ場として存在すればよいのではなく、常に「コミュニティの核」として地域と人を結びつける役割を担っていなければならない。公民館事業は地域や市民のニーズを収集することから始まって企画・運営へ発展していく。その先の「事業の成功」は職員のおしつけからは生まれない。地域に住む参加者の協力があって初めてそこに行き着く。大事なのは「住民力」と「地域力」。それをひきだすことが公民館職員に必要とされるスキルなのだと思う。

大震災の後、被災地にさまざまなボランティアが集まった。散髪・楽器の演奏・炊き出し・がれきの撤去等。機能を失った自治体からも戸籍や住民票の修復・建築物応急危険度判定などの職員要請が多くあったが、これといった資格もない私ではなにもできないのだなとつくづく無力さを感じた。しかし今回の研修を通じ、私は公民館職員として人と人を「つなぐ」役割になれる気がしている。栄養士のように食事の栄養を考えることは専門でないが、心の栄養を補うための活動であれば、普段の事業を通してわずかではあるが経験を得ている。形や資格にとらわれずとも、笑顔と元気、地域力と住民力を引き出す手助けができるかもしれない。いや、できる存在にならなければいけない。災害時だけでなく、普段の活動からそう意識していく必要性を強く感じた。

「公民館は『育自』するところ。いつか公民館を去る時、自分が成長したと感じることができるような日々を過ごしてほしい。」菅野村長の言である。ある日突然大きな成果や幸せがやってくるわけではない。毎日の中の小さな喜びを積み重ねて、幸せを感じることができるような豊かな心を自ら持ち、その幸せを地域や市民とのコミュニケーションに還元していけるような毎日を、公民館で過ごしたいと思う。

特集「災害時の公民館のあり

新発田市中央公民館
主任　**井浦　尚子**

１月18日から20日にかけての２泊３日、東京代々木のオリンピックセンターで第23回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）が開催された。約70名の公民館担当職員が全国から集まり、普段と違った環境において共に学習する機会に恵まれた。今回のセミナーは「災害における公民館の役割」をメインテーマにおき、実際に避難所運営に関わった方々のパネルディスカッション・防災の専門家による避難所運営ワークショップなどを通じ、災害時に公民館職員としてどのような対応をすればよいか、何が必要とされるかなどについて学習した。

平成23年３月11日。たくさんの尊い命を奪ったあの東日本大震災は、直接被害のなかった私たちの心にさえまだ癒えない傷を残している。すべての日本人が各々の「あの日あの時」を語ることができるといっても過言ではないと思う。地震の被害が揺れと津波だけに留まらず、放射能汚染まで伴ったことが今回の大震災の大きな特徴である。その原子力災害により全村避難を余儀なくされた福島県飯舘村の菅野村長の講話は、講演として聞くに余りある内容で心をわしづかみにされる思いだった。日本どころか世界中が始めて経験する放射能汚染がどれだけ恐ろしく悲しいものか。報道などで全村避難完了まで一ヶ月与えられたと聞き、時間的には十分余裕があったのだなと思っていたがそれは大きな間違いだった。村の将来を左右する決断を一ヶ月で下さなければいけなかった苦しみが、菅野村長の穏やかな口調の奥に強く強く感じられた。

現在の飯舘村の世帯数は2,300戸。震災前より600戸増えているという。一見世帯数の増加は喜ばしく思えるが、1,700戸の家族がバラバラに世帯を構えなくてはいけなくなった現状を表した数字なのである。同じ村民でも体の弱い高齢者、仕事をする父、子を守る母、若者、補助金をもらえることで働く意欲と問題にたちむかう気持ちを失いつつある者と、様々な状況が生まれた。原子力災害が奪ったものは村の美しい自然だけではない。そこに住む村民の心と絆をバラバラにし、深い傷を残している。物が壊れる被害についてはゼロからのスタートを切ることができるが、原子力災害についてはマイナスからのスタートである。ゼロに行き着くまでにこの先何年も、誰も経験したことのない身体への影響や不安と戦わなければならないという現実は、あまりにも切なくつらいものだった。

災害ワークショップ

もしあの日の風向きが私の住む地域に向いていたら。公民館職員として以前に１人の人間としてまず何をしたらいいのだろうか？今現在わが新発田市で400人弱の方が避難生活を送っているが、受け入れる側でなく避難する側になったかもしれない。その自分を思うと先を冷静に考えること自体が難しかった。それはその後の避難所運営ワークショップにつながる問いとなった。とかくメンタルな部分を刺激された菅野村長の講演とは正反対で、「考えるよりまず行動すること」が災害対策の初動にいかに重要かを直球でなげかける講義内容だった。

「災害はあなたの前で起こる。あなたの家が倒れ、あなたがと家族が犠牲になる。誰かが助けに来てくれると思ってはいけない。自分の命は自分で守ること。」

誰でもまさか自分が災害に遭うとは、ましてや命の危険にさらされるなどとは考えたくない。それでも敢えて「自分」に起こることだと考えることが「防災」の第一歩だという、ファシリテーターである細川氏の言葉が印象的だった。ワークショップもじっくり案を練るのではなく、直感で瞬時に判断することに重点をおいて行われた。

―指定ではないものの、あなたの勤める公民館が避難所となった。準備も情報もなく混沌とした中で物資おにぎり70個が届いた。避難しているのは100人。さて、あなたなら公民館職員としてどうする？―

この問いに対して私の班は「弱者優先で配る」という意見に落ち着いた。弱者とはどんな人をさす？いくつからがお年寄り？いくつまでが子ども？障害者手帳など持ち出せているものだろうか？など、さまざまな意見を交換してまとめた結

実践記録シリーズ 168

柏崎市のコミュニティセンターと公民館

柏崎北条地区コミュニティ振興協議会　主事　戸田　洋子

１．コミュニティセンター及び公民館設立の経緯

柏崎市のコミュニティセンターは、市内の中鯖石地区が自治省のモデルコミュニティ地区に指定され、昭和47年度に「中鯖石地区コミュニティセンター兼中鯖石公民館」が建設された。以来、全市に順次整備され、現在は市内に31のコミュニティセンターがある。

北条地区は、昭和51年度に「北条コミュニティセンター兼北条公民館」として市内では４番目に建設され、今年度で創立35年目を迎えた。

一つの建物に２枚の看板（コミュニティと公民館）が掲げられるということが柏崎最大の特色である。

○コミュニティ柏崎方式：コミュニティセンター兼公民館が整備される時の基本原則をいう。

範囲：小学校または中学校区の第一次生活圏域である。 施設：公立民営、市が建設して管理・運営は地域の責任で行う。 活動：住民主体の活動である。住民が主体となって地域の課題を解決していく活動

２．生涯学習における柏崎コミュニティ方式

コミュニティ柏崎方式は、建設される時の原則論・設置基準であって、公民館活動について触れられていなかった。公民館大会やコミュニティづくり研究集会などで、「公民館のコミュニティづくりに果たす役割」として、①公民館は、コミュニティづくりにおける社会教育活動の中核、②公民館は、コミュニティづくりにおける住民学習活動の推進役、③公民館は、コミュニティづくりにおける公と民を結ぶパイプ役等と言われてきたが今ひとつ具体的に分かりにくかった。

↓平成７年度

公民館とコミュニティが一つの館に同居する柏崎市独自のスタイルは「地域をよりよくするという共通の目的に、お互いがパートナーシップをとらなければならない」。このスタイルの確立こそ市民生活に生涯学習を浸透させるものとして「公民館とコミュニティの連環」が提唱された。

地区民は生きがいを求め、地域や生活をよくするために公民館で学習し、その学習成果をコミュニティ（地域）活動に生かし、コミュニティ（地域）活動や生活課題はそれを解決するために学習する」という連環を生涯学習における柏崎コミュニティ方式という。

公民館は住民の学習の場であり、コミュニティセンターは地域活動・地域づくりの拠点である。生涯学習社会では、公民館の学びの成果は地域・社会還元されるようコミュニティ活動に生かすことが大切である。一方、コミュニティ活動や地域づくりでは地域や生活の課題（地域で困っていること）を掘り起こし、その課題解決に向けて公民館で学習することが大切である。公民館とコミュニティは常にサイクリングし、より相乗効果が高まるのである。ここに、公民館とコミュニティを同一施設に設置した最大のねらいがある。

この連環は平成15年度のコミュニティ施策が導入されるまで生涯学習課の基本方針に位置付けられてきた。

３．新しいコミュニティ施策の導入（公民館とコミュニティの一本化：平成15年度）

市は平成15年度から、分かりにくい公民館とコミュニティを統合し、一本化した。

公民館とコミュニティの連環の手法は、地域つぐりを促進する大きな手法であり、この連環なくして生涯学習社会の実現はないと信じてきたが、公民館の看板は外され、コミュニティセンターの看板だけが掲げられている。

４．北条地区のまちづくり

（１）北条地区コミュニティ振興協議会の組織・運営・活動について

①組織：全町内推薦委員、サークル・団体・各種機関の代表、委嘱委員等で委員会を構成し、執行機関の役員を選出する。

②経費：地区内の全戸がコミュニティ会費を出し合う。（一戸年間会費3,600円）
市の補助：職員３人の報酬、光熱水費及び電話料の６割、警備清掃委託の補助、事業費の一定額（上限65万円）

③活動：住民が主体となって地域の課題を解決してゆく活動である。
地域づくりの活動・学習育成活動・体育活動・文化・サークル活動・広報活動・健康・福祉活動、安心・安全活動・その他の活動

（２）北条のまちづくりのスタンス＝公民館とコミュニティの連環によるまちづくり

地域づくりとは地域の課題を解決していくことにあり、公民館の学級・講座等で教育的な課題解決法で学び、その学習成果を生かしてコミュニティ活動として実践していくという「公民館とコミュニティの連環」を基本に取り組んできた。

公民館の学びと地域づくりが一体化した代表的事業として、耕地荒廃の歯止めに取り組んだ山うどの人工栽培、郷土の伝承料理の掘り起こしと冊子化、ギンナンの特産品化、北条いにしえロードの創出、音楽劇「長鳥の久遠い流れ」の創作・上演、人材バンク「北条地区助け合いセンター」の開設など数多くある。

（３）北条地区のまちづくり事業・講座

①平成13年度以降の北条コミュニティの主な事業・講座
ア．人材バンク　イ．コミュニティ「暖暖」　ウ．復興デザイン　エ．北条つららなす　オ．防災グリーンツーリズム　カ．ガイドボランティア養成講座　キ．大字対抗炊出訓練　ク．防災マップ　ケ．長鳥いにしえロード　コ．地域間交流

②平成13年度以降コミュニティ連環によるまちづくり講座
ア．北条人材バンク講座　イ．かあちゃんたちの学習塾　ウ．ふるさと・ふれあい・エプロン講座　エ．年表で綴るふるさとの足跡　オ．北条毛利氏郷土史講座　カ．北条毛利いにしえロード養成講座　キ．歴史ガイドボランティア養成講座　ク．長鳥いにしえロード創出事業

〈学習プログラム立案の際の要点〉
ア　学習のねらい：何のために学ぶのかということをしっかり位置づける。
イ　学習目標：学んでどうなりたいか、どこまで高まりたいか、どのような結果を得たいかが学習目標である。
とかく、個々の学習内容を先に考えがちであるが、ねらいと目標がしっかり位置づけられればそれを学ぶ内容はたくさんある。あとはそれをどのように組み立てられるかで学習プログラムは完成する。
ウ　学級、講座の名称：的を射た、住民が参加したくなるようなネーミングを付ける。

（４）公民館職員として教えられてきたこと

○住民を主体者として接し、住民主役の学習活動がなされるかどうか
○その学びの成果を生かす場面を設定してやれるかどうか
：個人の学習を地域づくりにつなげるプロデュースの能力を身につける。
○住民が自主的に学習活動や地域活動を進めていくことができるような助言・支援してやることができるかどうか
：住民が主体の学習・活動をコーディネイートする能力を身につける。
○公民館における人づくりとは、自分たちの地域や社会をよりよくしていくことを考えたり、行動していける人を、活動を通じて輩出すること。
○公民館事業は職員自身が感動できなければ住民を感動させることはできない。
○自ら学ぶ姿勢人のみ自らを高める。

circle サークル交流

自分が楽しく、みんなで楽しく
ハッピーマジック

四年前「ハッピーマジック」を立ち上げる。活動は月二回。一回はプロのマジシャンの指導を受け、一回会員のみで練習、技の習得に励む。マジックは奥が深く、思い通りに行かない事も多々あるが、手先を動かしたり、手順を考えたりする事で少しはボケ防止に役立っているのでは…と思っている。時々、施設や幼稚園等に出掛け、マジックの成果を披露し楽しんで頂いている。

現在会員が少ないので会員募集中。マジックは年齢、性別等に関係なく、何時でも始められる。条件は只一つ、「私もやってみたい！」それだけです。貴方も「見て楽しむ」側から「演じて楽しませる」側になり、周りの人を驚かせてみませんか！

（新潟市黒埼地区・ハッピーマジック　代表　渡部　信子　記）

一文字一文字格闘です又楽しみです
見附　点クラブ

点クラブは平成七年、見附市に以前からある点訳の会「めぐみ会」の援助で立上がりました。中央公民館の一室で月一回めぐみ会さんの指導の下、勉強を続けています。二時間程マイペースで、以前の点筆の音に替わり今はパソコンキーの軽い音が静かな部屋に響きます。慣れた人はめぐみ会さんと一緒に、毎月市が発行の広報見附の抜粋などを手分けして点訳しています。又、年に一度の視覚障がい者の人達との交流会もお酒を頂き乍ら楽しみの一つです。全盲、弱視の人達の生活の逞しさ、明るさにはいつも感謝です。

六点と一文字一文字との対応で人と人とが繋がります。点訳の奥深さ、興味は尽きる事はありません。

（見附市・見附点クラブ　代表　星野　俊司　記）

素顔拝見

加茂市公民館　主査　野村　直美さん

野村さんは公民館勤務８年目となるのベテラン職員です。

来館される利用者やお客様には持ち前のスマイルと巧みな話術で接し、悩み事や相談事にも一緒に真剣に考えてくれるとても素敵な女性です。

少年事業から高齢者事業まで幅広い年齢層の各種事業では、女性・母親の視点から男性職員には気づかないようなきめ細やかな準備と対応をしてくださり「さすが野村さん」といつも感謝の日々です。

そして、毎朝と休憩時に入れてくれるコーヒーがとても美味しいです！

ぜひ、加茂市にお寄りの際は公民館へ野村さんのコーヒーを飲みにご来館ください。

（加茂市公民館　主査　小柳豪志　記）

佐渡市羽茂地区公民館　主事　丹穂　亮太さん

昨年４月より羽茂地区公民館に配属になった丹穂君、体格も良くバレーボールでは全国大会出場を目指しているとか？当公民館は職員３名の少数精鋭（？）の職場。仕事柄重い物を取り扱うことが多く頼りがいがあると思ったら、歩き方が変？聞けば腰痛もち。しかし、「壊れそう、壊れそう。」と言いながら頑張っています。

また、約１時間の通勤、見知らぬ地区での仕事、休日出勤も多く大変と思いきや、大の釣り好きでもあった。南佐渡は釣場の宝庫、彼にとっては格好の職場らしい？映画の「釣りバ…」を思い起こすが、まさか！

お魚さんばかりでなく、地区の人達にも慣れ親しんできた、今日この頃であります。

（羽茂地区公民館　佐々木雅敏　記）

お元気ですか

池嶋　正和（柏崎市）

現在、別俣コミュニティ振興協議会に勤務、地域の皆様の暖かいご指導、ご協力により、地区大運動会、稲虫送り、コミセン祭り等色々な行事を行い地域の活性化に向けて頑張っています。

23年度は、ふるさと公園を作り、公園内には「ふるさと食堂・喜楽来」、「マレットゴルフ場」（ゴルフやゲートボールと違い年齢、性別に関係なくいつでも誰でも気軽にプレー出来ます）8月21日オープンしました。

澄んだ空気と真っ青な空さわやかな風が頬に、プレーをして見ませんか、元気に楽しい一日を過ごして頂きたいと心待ちにしております。

information

新任事務職員

当連合会の現事務員「佐藤泰子」さんが3月末で退職することになりました。佐藤さんは、24年間にわたり勤務し県内の公民館事情や事務取扱いに精通していました。多大な功績に感謝いたします。

佐藤さんの後任は「島津和子」さんです。

4月から公民館連合会の事務員として採用されることになりました。よろしくお願いします。

恵贈資料紹介

世界遺産年報2012

発行　公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

世界遺産に関する最新で正確な情報が紹介されています。

4年ぶりに日本の物件登録がされたことを受け、「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」と「小笠原諸島」が特集されています。2011年までに登録されている「世界遺産リストとマップ」では〈文化遺産〉〈自然遺産〉〈複合遺産〉〈危機遺産〉がわかりやすい地図とともに一覧表になっています。

また、登録に向けての新たな動きのなかに「金を中心とする佐渡鉱山の遺跡群」がリストアップされていることも掲載されています。

紹介の遺跡はいずれも美しいグラビアとともに紹介されていて、解説もわかりやすく全体に興味深く親しみやすい編集になっています。

問い合わせ
公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
〒150―0013
東京都渋谷区
恵比寿1―3―1
朝日生命恵比寿ビル12F
TEL　03―5424―1121

あとがき

事務局長のつぶやき

春は、別れと出会いの季節です。

多くの功績を残してご勇退や異動される方々ありがとうございました。後任の方々、よろしくお願いします。

当紙は709号まで発行数を伸ばすことができました。発行を支えていただいた読者の皆様と寄稿をいただいた執筆者の皆様に感謝申し上げます。来年度もよろしくお願いいたします。

（田原）

大切な子どもたちのために

日本の将来を担う大切な子どもたちや地域住民の安全を確保するため公立学校施設の耐震化を推進しています。

新潟県公立学校施設整備促進期成会
会長（出雲崎町長）　小　林　則　幸

新潟市中央区新光町4-1　新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041　FAX 025(285)1609

発行所　新潟県公民館連合会　発行人／会長　大塚美光　編集人／事務局長　田原　理　Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp
〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 TEL・FAX（025）266-7711
印刷／第一印刷所　〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776【定価1部150円 〒共・年間 1,800円】